

陳述書

2018年6月1日

佐賀地方裁判所 御中

住所 福岡市東区

氏名 松村 知暁

(1)

私たちの願いもむなしく、玄海原発3号機は再稼動してしまいました。しかしながら、稼動してすぐ、配管に蒸気漏れを起こすという事故を起こしてしまいました。配管だらけの原発、しかも7年以上も動かしてなくて、きちんと点検もできていない、事故が起こって当然といえます。さらに5月2日には、4号機の原子炉容器内の放射性物質を含む1次冷却水を循環させるポンプ2台で、異常が見つかりました。もしも地震や火山、人為的ミスによる過酷事故が起こったら、誰が責任を取るのでしょうか。次から次へと事故を起こす九州電力は、原発を即刻止めるべきです。このままでは、必ずチェルノブイリや福島第一原発のような過酷事故を起こします。

(2)

私の住んでいる人口157万人の福岡市は、玄海原発から40km～60kmの距離にあります。玄海原発で過酷事故が起きれば、偏西風の影響で放射能は必ず福岡市を襲います。季節による風向きの違いはあるものの、いつの場合も風下に位置する福岡市に飛散してくるのは間違いありません。とりわけ、季節風の吹く冬の時期にはその危険がいつそう増します。

玄海原発で福島第一原発のような過酷事故が起きれば、福岡市は飛散した放射性物質による放射能汚染は免れないでしょう。また、すごいスピードで飛来する放射性物質から避難することも不可能です。それどころか、偏西風は日本列島を全滅させるかもしれません。

(3)

福島原発の事故は終わっていません。

2011年3月11日に発生した地震と津波で、福島第一原発1, 2, 3号機がメルトダウンを起こし爆発しました。この時、放出された放射性物質の80%は太平洋へ飛散しましたが、20%は本州にまき散らされました。そして、その放射能は、北は岩手県南部から南は静岡県北部まで、東北・関東一円を汚染しています。しかしながら、政府は被曝許容量を年間1ミリシーベルトから20ミリシーベルトへと20倍に引き上げ、避難ではなく住民を被曝させるという暴挙を行っています。年間20ミリシーベルトというのは、1年間で胸部X線を約1000回、毎日3回浴びる量に相当するということです。とんでもないことです。

また、低線量でも長い期間の間、体内に取り込まれたり、吸い込まれたりして、被曝する内部被曝によるリスクを見逃してはなりません。とりわけ、猛毒のセシウムはカリウムと良く似ており、土や水に入りこんで、野菜、果物、肉、牛乳、米などを汚染します。そして、セシウム137に汚染された食物の摂取は、動植物の中で生体濃縮する傾向にあるといわれています。汚染地域に住む日本の子供たちは、同じようにセシウム137で汚染された大地に住むベラルーシやウクライナなどの子供たちのように、汚染された食物を摂取することによって危険にさらされています。32年前に起きたチェルノブイリ原発事故で、現地では今もなお放射能による汚染が続いており、ガン、白血病、心臓疾患などさまざまな病気に苦しんでいます。ベラルーシ、ウクライナ、ロシア、そしてヨーロッパの多くを汚染した、半減期が30年のセシウム137が生態系から無くなるまで、180年から320年かかるだろうといわれています。チェルノブイリの悲劇を、フクシマでも繰り返そうとしています。なんと愚かしいことでしょう。

(4)

2年前の熊本の直下型大地震の恐ろしさを忘れてはなりません。

私の生まれ故郷は熊本県阿蘇市です。今もなお避難生活を強いられている被災者の方々、小学生の頃よく遊んだ阿蘇神社の倒壊、熊本城の崩落を目の当たりにして心を痛めています。

熊本大地震で交通がいかに遮断されたか、少しお話ししたいと思います。

4月14日の第1回目の震度7の地震の後、山鹿にいる妹が、すぐに熊本市内にいる娘の所へ車で行こうとして5時間もかかったとのこと。通常40分位で行けるところが、いたる所通行止めなどで通れず、また渋滞にあって、とても時間がかかったのです。

また、阿蘇へ向かう国道57号線と豊肥線は、立野の山体崩壊で埋まり、南阿蘇へ向かう阿蘇大橋も南阿蘇鉄道の鉄橋も谷底に落ちてしまいました。そして、益城町と南阿蘇を結ぶ俵山トンネルも一時不通になりました。

熊本市方面からは、大津町から外輪山を越えるミルクロードしかなくなり、阿蘇市へはとても時間がかかるルートとなっています。昨年秋、阿蘇長陽大橋が架かり、南阿蘇へは何とか従来どおり行けるようになりました。しかしながら、立野では、無人の建設機械が土砂を取り除く工事中で、57号線・豊肥線の開通はまだまだ先のようです。

また、断層が走った高速九州道の嘉島ジャンクション付近は、最近まで復旧工事をしており、渋滞を引き起こしていました。このように大きな地震は交通を寸断し、すごい交通渋滞と地域の孤立化を招きます。原発との複合災害が起きれば、避難することなど不可能だと思います。

日本中どこでも地震は起こり得ます。中央構造線は九州を横断し、各地を走る断層は網の目のように覆いつくしています。福岡でも警固断層を中心に福岡西方沖地震が、13年前に起きました。佐賀県には、唐津城山南断層、竹木場断層、伊万里楠久断層があります。玄海町南部には、「にあんちゃん」の映画で有名な大鶴炭鉱があり、地下は石炭層で埋もれています。佐里温泉をはじめ、北松浦各地にも温泉が湧き出しています。過去にマグニチュード6から7の巨大地震が起きた形跡が、断層に残っています。そして、福岡県沖から佐賀県にならぶ3つの活断層は、つながっている可能性が高いといわれています。

また、世界的に見ても日本、チリ、台湾、韓国、中東、フランスなどで相次いで地震が起こり、地震の激動期に入っています。とりわけ、日本では、活断層による直下型地震は誰にも予想できず、日本列島は断層の固まりで、どこでも起こり得ることを示しています。阪神大震災、熊本大地震、2キロ四方の山が陥没してなくなり、人類史上最大の揺れを記録した岩手・宮城内陸地震など、日本中どこでも直下型地震の脅威が存在します。活断層が分からない所でも起こりえます。大地震の可能性を無視し、直下型を想定しない玄海原発は、再稼動してはなりません。

(5)

私は、生活協同組合で、安心安全な食べ物を組合員のみなさんに届ける仕事をしてきました。そして、退職後、15人の仲間と一緒に、無農薬・有機肥料で野菜を作っています。

また、ラムサール条約の登録をめざして、「和白干潟」を守る活動に参加してきました。「和白干潟」は、博多湾の奥に残された干潟で、全国では2ヶ所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、クロマツ林や雑木林、湿地などがあり、多様な生き物を育む重要な干潟です。東アジアの渡り鳥の渡りのルートにあり、ミヤコドリや貴重な絶滅危惧種のクロツラヘラサギなども飛来しています。干潟の生き物、そして自然を守る立場からは、原発事故による放射能汚染は、生き物、自然にとって最悪の環境汚染、環境破壊です。

放射能は無味無臭で目に見えません。そして、空気、水、大地を汚染します。だから、恐ろしいのです。放射能と食べ物・いのちは相容れません。放射能と相容れない全てのいのちと地球の未来がかかっています。今からでも遅くありません。事故が起こってからでは誰も責任が取れない全ての原発を廃炉にすべきです。そして、今まで生み出した放射能汚染物質を処理するために全力を尽くすべきです。そのためにも、玄海原発の再稼動を止める判決が下されんことを切に望みます。